

第二編 戸口

第一章 市の戸口

第一節 戸口の増加

廢藩置縣以来、佐賀の市街は普通に佐賀郡佐賀町と称へて来たが、明治二十二年市制町村制実施と、もに市制を施行して佐賀市となつた、その当時の総戸數は四千八百四十七戸、総人口二万五千六百二十八人であつたが、年々増加して五十年後の今日は、戸數八千〇六十二戸、人口四万五千八百六十八人となり、其の一戸当てる人口は五人六餘に當る、五十年間の増殖數としては遅々たる憾なきにあらざるも、今、市制施行当時の明治二十二年より毎年の戸口増減の歩みを表示すれば左の如き數字を表現する事が出来る。(△印は減)

年次	戸數	人口		戸數	増減
		男	女		
明治二二	四、八四七 ^戸	一三、〇二五 ^人	一二、六〇三 ^人	二五、六二八 ^人	…… ^戸
同二三	四、八六二	一三、一〇六	一二、九一一	二六、〇一七	一五
同二四	五、〇〇一	一三、二四五	一三、〇五〇	二六、二九五	一三九
同二五	五、〇三八	一三、三五九	一三、一二三	二六、四八二	三七

大正八年以後は「佐賀市勢一斑」に依り数字表現の形式を異にするところあるを以て前表と同一にせず左に更めて之を掲ぐ。

年次	現在戸數	現在		計	戸數一戸に對する人口
		男	女		
同五	五、九一八	一七、九三〇	一七、四八五	三五、四一五	三七三
同六	六、〇〇二	一八、一九〇	一七、八五二	三五、〇四二	八四
同七	五、九八四	一七、九四〇	一七、七三八	三五、六七八	△一八
					△三六四
大正八	六、一三〇 ^戸	一六、一四〇 ^人	一七、三八六 ^人	三三、五二六 ^人	五、四六九
同九	六、三六五	一六、六二七	一七、八九四	三四、五二一	五、四二二
同一〇	六、四四七	一六、八六八	一七、八七六	三四、七四四	五、三九六
同一一	七、四七三	一八、四八〇	二〇、〇〇三	三八、四八三	五、一三五
同一二	七、九七二	一八、八六一	二〇、一四二	三九、〇〇三	四、八七九
同一三	七、九五七	一九、四二八	二〇、〇二四	三九、四五二	四、九〇〇
同一四	八、〇二八	二〇、七四八	二一、一一一	四一、八五九	五、一一三
昭和元	八、一七九	二一、二四〇	二二、一六七	四三、四〇七	五、四八四

右の内大正十一年に於て、戸數、人口とも著しく増加を示せるは神野村を当市に合併したる結果である、又次表に記する昭和三、四兩年の戸口資料は之を探索するも見当らず多分市廳舎火災の際焼失したるものと思はるゝを以て暫らく之を省き昭和五年以降を順次記載することとする。

昭和	二	八、〇三九	二二、二〇一 ^人	二二、六六六 ^人	四四、八六七 ^人	五、五八 ^人
同	三	……	……	……	……	……
同	四	……	……	……	……	……
同	五	八、五七六	二二、七〇三	二四、七七一	四七、四七四	五、五四
同	六	八、六七四	二二、〇二〇	二四、二五二	四七、二七二	五、四五
同	七	八、六七九	二二、一〇五	二四、〇八三	四七、一八八	五、四三
同	八	八、五七四	二二、一五二	二三、六九四	四五、八四六	五、三七
同	九	八、七七八	二二、〇五二	二四、九三八	四七、九九〇	五、四六
同	一〇	九、三三九	二二、一四八	二五、一七三	四八、三三一	五、〇四
同	一一	八、七八四	二二、七一四	二四、五一八	四七、三三二	五、一七
同	一二	八、八一七	一九、一九四	二四、八六二	四七、一五六	五、三五
同	一三	九、〇〇九	二二、一六一	二四、九五〇	四七、一一一	五、二二
同	一四	八、〇六二	二二、〇七七	二四、七九一	四五、八六八	五、〇五

第二節 本籍戸口と寄留

佐賀市の現住戸口は前節に示す如くであるが、本籍戸口に就ては、詳しく取調べたるものなく、只人口のみを市制施行当時より数年置きに示し、而も大正七年までの本籍人口を示せる資料あり、之を記すれば左の如くである。

年 次

本籍人口

年 次

年 次

本籍人口

明治三十二年 二五、五〇六^人
 同 三十二年 二八、〇二五
 同 四十一年 三一、七八五
 大正 七年 三五、六七八
 明治三六年 二六、六一一^人
 同 三六年 三〇、四六五
 大正 二年 三四、〇九一

更に大正十二年以降の調査を見るに左の如き数字を表はして居る。

年次	在籍戸數	男	女	計
大正十二年	八、七二〇 ^戸	二一、七三五 ^人	二一、三八一 ^人	四三、一六六 ^人
同 十三年	八、七八六	二一、九六七	二一、六六八	四三、六三五
同 十四年	八、八六八	二二、二九五	二一、六六八	四三、九六三
昭和元年	八、九四五	二二、五七四	二二、〇八八	四四、六六二
同 二年	九、〇一二	二二、七三五	二二、三七七	四五、一一二
同 三年	……	……	……	……
同 四年	……	……	……	……
同 五年	九、二一一	二三、四七七	二三、一六八	四六、六四五
同 六年	九、〇七三	二三、一七一	二二、七五四	四五、九二五
同 七年	九、〇二七	二三、七〇三	二四、〇八六	四七、七八九
同 八年	九、一一〇	二四、六八一	二五、〇六二	四九、七四三
同 九年	九、一六八	二四、四二二	二四、三五二	四八、七七四
同 一〇年	九、二三八	二四、四二二	二四、六六二	四九、〇八四
同 十一年	九、三一八	二四、八一二	二四、八六一	四九、六七三
同 十二年	九、四五八	二五、二九六	二五、二四四	五〇、五四〇

市の戸口

一八

同 一三年 九、四九六 二五、五二一 二五、三八二 五〇、九〇三
 同 一四年 九、七一 二六、〇三四 二五、八一三 五一、八四七

而して寄留者の数を昭和九年以降の市勢要覧より抄録すれば左の如くである、但し昭和十年及び同十三年の出寄留、入寄留は資料なきを以て不明である。

年次	戸数	入寄留		計
		男	女	
昭和九年	四、五六六	一〇、一四二	九、八一四	一九、九五六
同 一〇年	……	……	……	……
同 一一年	四、九七三	一一、三九七	一〇、九二一	二二、三二八
同 一二年	五、一八二	一一、五四九	一一、八四四	二三、三九三
同 一三年	……	……	……	……
同 一四年	五、七四四	一二、九四四	一三、三〇九	二六、二五三
出寄留		出寄留		計
年次	戸数	男	女	
昭和九年	四、〇八一	八、七〇八	八、一二三	一六、八三一
同 一〇年	……	……	……	……
同 一一年	四、三三七	一〇、〇五七	九、四三二	一九、四八九
同 一二年	四、五九五	一〇、六二一	一一、八四四	二二、四六五
同 一三年	……	……	……	……
同 一四年	四、七八六	一一、一一三	一〇、三三七	二一、四四〇

第三節 職業別

藩政の頃は土農工商の四民に別れ、孰れも其職域に熱誠なるものがあつたが、今は職域も拡大せらるゝに至つた、大正六年以前に於ける職業別は未詳なるも、大正六年に於ける職業別を示せば、現在戸数六千二百にして其職業別は左の如くである。

商	業	工	業	軍人 官公吏	交通 運輸業	蔗	業	其	他	合	計
一、七七九		一、〇三〇	戸	五二一	戸	一、二六八	戸	一、〇五九	戸	六、〇〇二	戸

而して農業を営むものは殆どなく、ヨシ有つたとしても別に挙ぐる程の事にあらず、皆無同様であつたが、大正十一年神野村合併後の職業別を示せば、左の如く農業生活者を見るに至つたのである。

農 業

大正	八年	三	戸	三	戸	九	戸	七	戸	一	戸
同	九年	三	〇	三	六	一	五	一	八	三	三
同	一〇年	二	二	三	八	五	五	七	八	一	三
同	一一年	一	四	七	五	九	二	〇	六	七	〇
		兼	業	計	兼	業	計	兼	業	計	兼
		一	四	七	五	九	二	〇	六	七	〇
		一	九		二	九		一		一	

市の戸口

一九

商 工 業	年										計		
	同 二 年	昭 和 元 年	同 一 四 年	同 一 三 年	同 一 二 年	同 一 一 年	同 一 〇 年	同 九 年	大 正 八 年	大 正 九 年		大 正 十 年	
	一	一	一	一	一	三	二	三	四	四	戸	専 業	
	六	一	一	一	一	八	八	二	二	二	二	兼 業	
	六	一	一	二	九	三	二	一	五	一	六	戸	計

漁 業	年					計		
	同 二 年	昭 和 元 年	同 一 四 年	同 一 三 年	同 一 二 年			
	一	一	一	一	一	戸	専 業	
	五	六	六	六	二	二	兼 業	
	一	一	一	一	一	九	戸	計

商工業は元來都市の生業にして各都市とも盛んであるが、当市の商工業は如何なる状態を以て、如何なる歩みが続け、如何なる發展を為しつゝあるか、いま明治二十二年市制施行以來の状態を左表に依て現はして見やう、但し商業戸数には専業、兼業の内訳なきも其の儘に掲載する。

年	工業		商業	
	専業	兼業	専業	兼業
明治二十二年	四二三戸	三八五戸	八〇八人	一、二四〇人
同 二六年	四〇八戸	三七九戸	七八七人	一、一二六人
同 三一年	二〇三戸	四七八戸	六八一	二、〇九三人
同 三六年	一、〇八五戸	一二〇戸	一、二〇五人	二、五二八人
同 四一年	八四二戸	八五戸	九二七	一、九二〇人
大正 二年	五四二戸	九九戸	六四一人	二、二五八人
同 六年	八三〇戸	二〇三戸	一、〇三三人	一、七七九人

而して大正十二年の市勢一斑の調査に依れば、前表よりも詳細なるものあれど、惜いかな大正七年以降九年までの調査を缺である。

年	工業		商業	
	専業	兼業	専業	兼業
大正一〇年	八三五戸	三三九戸	一、二三四人	二、九五二人
			九〇三人	三、八五四人

同 一一年	一、〇五九	五九七	一、六五六	二、八四六	一、〇六七	三、九一三
同 一二年	一、〇八五	六二〇	一、七〇一	二、九七〇	一、〇八五	五、〇五五
同 一三年	七九八	一一五	九一三	一、九九三	三三六	二、三二九
同 一四年	七九一	一一二	九〇三	二、〇三五	三三九	二、三七四
昭和 元年	七八八	一一〇	八九八	三、四九〇	三三六	三、八二六
同 二年	七八五	一〇八	八九三	一、九三五	三三九	二、二七四

商 業

大正一〇年	一、三八五	八七八	二、二六三	二、七五六	八三七	三、五九三
同 一一年	一、九九三	一、〇五二	三、〇五四	三、一八〇	一、三六六	四、五四六
同 一二年	二、〇二七	一、〇三六	三、〇六三	三、三五二	一、三一六	五、六六九
同 一三年	一、九五五	九四三	二、九〇八	五、二一七	一、六六七	六、八八四
同 一四年	一、九三五	九二五	二、八六〇	五、二一八	一、六九四	六、九一一
昭和 元年	二、〇〇六	九五〇	二、九五六	五、二四三	一、七三四	六、九七七
同 二年	二、〇五〇	九八一	三、〇三三	五、四三三	一、七九六	七、二二九

昭和三年以下同十年まで及び昭和十三年分の職業資料を見当らざるを以て、之は省くこととするが、昭和十一年以後の分は其の統計形式前記の分と多少趣きを異にしてゐる。

昭和十一年

戸数

男

人

女

口

計

	昭和十三年		昭和十四年	
	戸口	人口	戸口	人口
無業	一、三五四	二、三一〇	三、〇七四	五、三八四
合計	八、八一七	一九、一九四	二四、八六二	四七、一五六
農業	二五八	七〇〇	七三三	一、四二三
水産業	三	九	一一	二〇
鉱業	二四	四九	六六	一一五
工業	二、〇一八	五、八五三	六、四七九	一二、三三二
商業	二、五〇八	六、六九七	七、八七五	一四、五七二
交通業	三五七	九八〇	一、〇二五	二、〇〇五
公務自由業	一、三三二	四、六二七	五、二九三	九、九二〇
其他の有業	七九	二〇八	二〇〇	四〇八
無業	一、四八三	一、九五四	三、一一九	五、〇七三
合計	八、〇六二	二二、〇七七	二四、七九一	四五、八六八

即ち商工業はサスガに一頭地を抜きて、人口の過半数を占めて居る事が判る、次ぎは公務自由、交通業、農業の順序である。

市の戸口

同	同	同	大正	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同						
四	三	二	元	四	三	二	一	〇	三	三	三	三	三	三	三	二	一	〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二
五、八四六	五、六八四	五、六一八	五、六三三	五、六一五	五、五三八	五、三八八	五、三四六	五、二九七	五、一九八	五、一一九	五、二五〇	五、一八七	五、〇五三	五、〇五四	五、一一六	五、〇六二	四、八九三	四、九二五	四、九二一	四、八九三	四、九六五	五、〇二七					
一七、六三九	一七、四二七	一七、一五〇	一六、八七〇	一六、六八二	一六、四四一	一五、九七六	一五、八四三	一六、一九一	一五、八九八	一五、七〇七	一五、五一八	一五、二七〇	一四、九五六	一四、八五七	一四、四九九	一四、一一九	一三、九七八	一四、〇一五	一三、七五七	一三、六九一	一三、四六七	一三、四一一					
一七、四〇三	一七、一二三	一六、九四一	一六、六四七	一六、七七六	一六、一七九	一六、〇八八	一五、九四二	一五、九五四	一五、五一一	一五、六〇五	一五、四三八	一五、一九五	一四、九五五	一四、八〇九	一四、五九八	一四、三二三	一四、〇四七	一三、八一〇	一三、五八一	一三、四七六	一三、二〇〇	一三、二〇〇					
三五、〇四二	三四、五五〇	三四、〇九一	三三、五一七	三三、四五八	三三、六二〇	三三、〇六四	三二、七八五	三二、一四五	三一、四〇九	三一、三一二	三〇、九五六	三〇、四六一	二九、八八一	二九、六六六	二九、〇九七	二八、四四二	二八、〇二五	二七、八二五	二七、三三八	二七、一六七	二六、六六七	二六、六一一					
一六二	六六	一五	一八	七七	一五〇	四二	四九	九九	七九	△一三一	六三	一三四	△一	△六二	五四	一六九	△三二	四	二八	△七二	△六二	△六一					
四九二	四五九	五四四	五九	八三八	五六六	二七九	△三六〇	七三六	九七	三五六	四九五	五八〇	二一五	五六九	六五五	四一七	二〇〇	四八七	一七一	五〇〇	五六	一一九					